RT JOURNAL

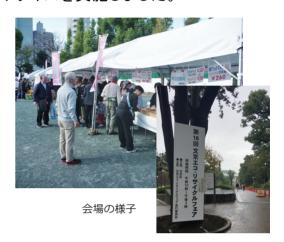


vol.12

文京学院大学が参加する、文京区主催のイベント、 「文京エコ・リサイクルフェア」にリーテックが協力。

リーテックは 10 月 27 日に文京区主催の「文京エコ・リサイクルフェア」へ文京学院大学の学生 8 名と一緒に出展し、金属リサイクルについてのパネル展示やクイズを実施しました。

リーテックは 2018 年 4 月より、文京学院大学 人間学部 コミュニケーション 社会学科 3 年生のカリキュラムである、「フィールドプロジェクト演習」にて 連携企業の 1 つとして学生 8 名と一緒に金属リサイクルの啓発活動に取り組んでいます。8 月にはリーテックの処理センターである、東京 RSC センターにて 実施した「リサイクル体験会」に学生を招待し、実際に製品が分解される様子や、破砕機による処理の見学をしてもらいました。金属のリサイクルの必要性や方法などを学習した後は、実際に自分たちで携帯電話を解体して標本を作り、金属リサイクルについての知識を深めました。今回は、その集大成として、「文京エコ・リサイクルフェア」へ出展し、『これで君も金属博士!』と題して、金属リサイクルについてパネル展示や実験型クイズを実施し、学生たちが学んだことを多くの方に知ってもらう機会をつくりました。



「文京エコ・リサイクルフェア」当日の様子

文京学院大学のブースには 200 名以上の方が訪れました。

パネル、携帯電話の分解標本、鉱石標本、マグネット式の携帯電話の模型などを展示。実際に触ったり、近くで見たりしながら、携帯電話と金属の関わりについて知ってもらいました。クイズで答えた子供たちには、学生たちがつくった「金属博士認定書」をプレゼント。多くの子供たちが誇らしげにしながらブースを後にしました。



クイズに答える子供たち



携帯電話の解体標本



金属博士認定書

文京学院大学「あやめ祭」で携帯電話の回収を実施。 集められた携帯電話はリーテックが責任を持って処理し、収益金を寄付致します。

10月20日、21日に実施された文京学院大学の大学祭「あやめ祭」にて、学生たちが金属リサイクル促進のために、不要携帯電話の回収を行いました。その結果、8台の携帯電話が集まりました。彼らが出展したブースには、携帯電話の回収ボックスだけでなく、事前に大学内で実施した携帯電話のリサイクルに関するアンケート調査の結果や、リーテックの「リサイクル体験会」での様子をまとめたパネルも展示されていました。また、子供たちにも関心を持ってもらいたいということから、特大のゴリラのパネルや、それを助ける回収戦隊ケータイアツメンジャーの顔出しパネルを設置。多くの子供たちがそのパネルと一緒に写真を撮っていました。今回、集められた携帯電話はリーテックが引きとり、データ破壊・破砕処理を行い、精錬所へと運ばれ、また新たな金属に生まれ変わります。また、収益金は大学が希望する慈善団体へ寄付をいたします。今後、リーテックは事業のみならず、寄付活動にも力を入れてまいります。



実際に回収した携帯電話

携帯電話とゴリラの関係とは?

今回、大学生と一緒に金属リサイクルの啓発パネルを作成する際に、携帯電話を取り巻く様々な社会課題や環境問題があるけれど、一体どうやってお客さんに伝えたら、興味を持ってもらえるかという企画会議にすごく時間をかけました。そして、いろいろある課題の中から、「携帯電話とゴリラの関係」についてパネルを作成し、ゴリラを救うためにも携帯電話をリサイクルしようと訴えることにしました。

絶滅危惧種に指定されている東ローランドゴリラ。 その原因は森林の減少と鉱物の違法採掘による密漁が関係していた。

コンゴ民主共和国は長く内戦が続いていました。その一因に、反政府勢力が鉱物資源である「タンタル」の収入を 武器の購入に当てていたことが挙げられます。タンタルは希少価値の高い金属で、埋蔵量のほとんどがコンゴの森林 の中にあります。採掘されるタンタルの多くは、コンゴで使用されずに、携帯電話などの部品の原料として先進国 へ輸出されていました。コンゴの大半は生物多様性の豊富な森林であり、その原生熱帯雨林は、東ローランドゴリラの生息地でした。タンタルを発掘したい人々は、多くの木を伐採し土を掘り起こします。そうすることでゴリラは 住処を失い命を落としてしまったり、密猟者にすぐに見つかり食料にされてしまったりして、個体数をどんどん減少させたのです。ゴリラは森を育てる役割をしています。森を歩き回ることで古い枝を折り、薄暗い森の中で日向を 作りだすことで、種子を目覚めさせ、新しい森を形成します。そのため、ゴリラが減少することで森林の減少に拍車がかかりました。また、長引く紛争により、多くの人が命を落としました。

今では、情報開示を義務づける紛争鉱物条項を設けた金融規制改革法(ドッド・フランク法)が成立され、武装集団に資金的に寄与し、深刻な人権侵害に荷担していないかどうかを確認するために、企業に対して間接的に紛争鉱物の使用抑制を促しています。

携帯電話をリサイクルして全ての金属を抽出することは高い技術が必要となり、効率を考えると 難しい部分もありますが、全部でなくとも、携帯電話からリサイクルできる金属は確実にあります。 まずは、私たちがリサイクルする意識を持ち、物を大切に扱いましょう。

参考:朝日新聞デジタル 2010 年 10 月 17 日 http://www.asahi.com/eco/NGY201010160014.html

リーテック ISOの取り組み!今月の活動テーマは「5定の推進」

リーテックは2ヶ月ごとに ISOに関する活動テーマを設け、「安全・健康で明るく楽しい職場」を目指しています。

今月の ISO の活動テーマは「5 定(定置・定量・定物・定時・定箱)の推進」です。普段から 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躾)に取り組んでいますが、5 定の推進により、職場環境の改善(美化)や業務効率の改善に繋がります。作業場、倉庫内のみならず、机の上やキャビネット、電子媒体のフォルダーなども対象です。決められた配置以外に物が置かれていると思わぬ怪我や事故にも繋がります。また、必要な人が必要な時に使えず、作業効率が下がってしまいます。働きやすい職場にするために、社員全員で改善を進めていきましょう。

5定とは・・・

一 52 物:

物を置く場所や位置の範囲、高さを決めて表示をする。 (範囲や高さをテープ・張り紙で表示)

定量

置く物の量を決めて表示する。 (数量、●ヶ月分)

定物

置く物を決めて表示する。 (製品名、工具名、器具名)

定時

物を置く期間・時間を決めて表示する。 (仮置きの期間、常時、●年●月まで)

定箱

物を置く・保管する箱や荷姿を決める。 (工具箱、救急箱、保管箱)

11月は品質月間です。

品質月間に伴い、リーテックは5定を推進するとともに品質向上についても見直しを行い、お客様満足度の向上を目指します。品質は、製品・サービスだけではなく、業務の品質も含みます。

法令及び社内ルールを遵守し、誠心誠意・忠実・正確・適切で効率的な業務に努めましょう。

編集後記



RT JOURNAL の発行を始めてから 1 年、発行数も vol.12 となりました。毎月きちんと発行ができたのは、取材に協力してくださる皆さんのおかげだと思っています。本当に、有難うございます。意外と編集後記に関するコメント(主に写真に対し)も多く頂き、細かいところまで皆さんが見てくださっていることを嬉しく思いました。今後も毎月発行していきますので、ご愛読いただきますよう、宜しくお願い致します! CSR 小野 真菜